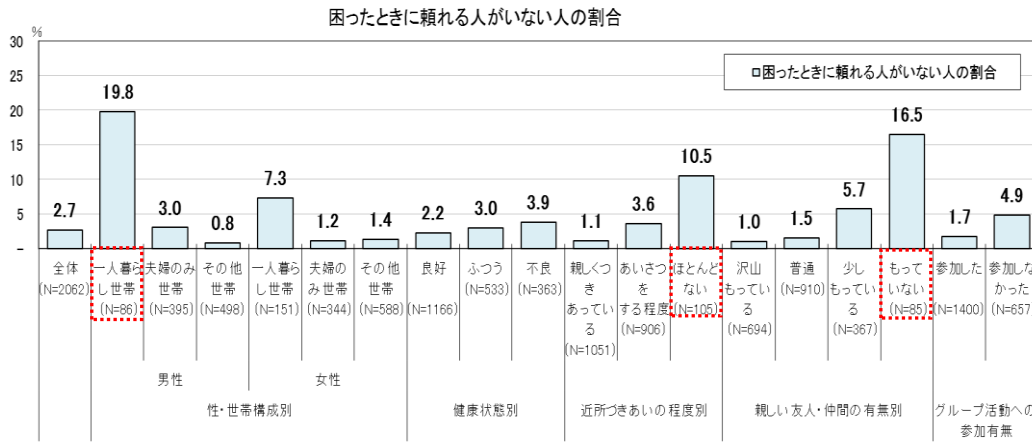


社会的孤立の実態

「困ったときに頼れる人」がいない割合

[p.22]

○「困ったときに頼れる人がいない」人は、一人暮らしの男性のほか、近所づきあいがいない人、親しい友人・仲間をもっていない人に多い
 (一人暮らし男性の19.8%、近所づきあいがほとんどない人の10.5%、親しい友人をもっていない人の16.5%は、困ったときに頼れる人がいないと回答)



資料：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」(平成22年)
 (注)調査対象は、全国60歳以上の男女

<地域のつながり>

全体を見ると「地域のつながりが必要だ」と思っている人は9割を超えていますが、実際に「自分が居住する地域ではつながりがある」と思っている人は77%です。地域のつながりを必要と思っている人と実際にそれを感じている人にはギャップが生じています。

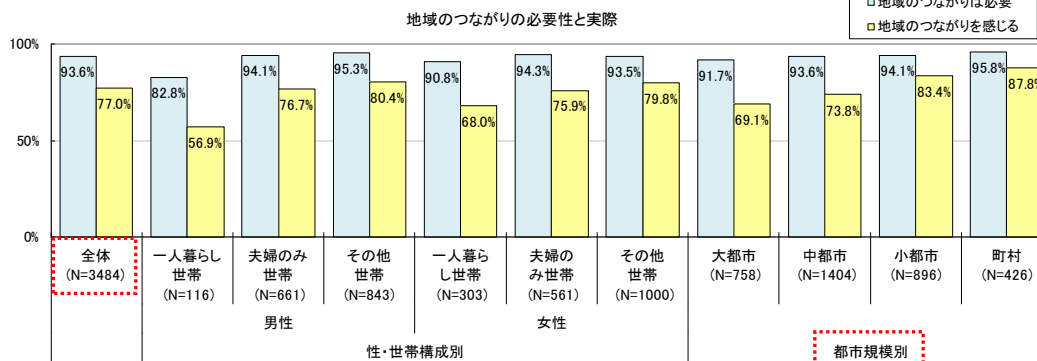
都市規模別に見ると、都市規模が大きいほどギャップが大きく、町村部になると、差は縮まります。

社会的孤立の実態

地域のつながり

[p.22]

○「地域のつながり」の必要性和実際には、ギャップがある
 (「地域のつながりが必要」と思っている人は90%を超えるが、実際に居住地域で「地域のつながりを感じる」人は77.0%に留まる。また、都市規模が大きいほどギャップが大きい。)



資料：内閣府「高齢者の地域におけるライフスタイルに関する調査」(平成21年)
 (注)調査対象は、全国60歳以上の男女